

と政變對策に於いて一われ等はあらず、機會を捉へて眞闘争の
働者と協力し、彼等が運動を支持するためには戦ふ。政黨はその
場合、労働者、農民も政治的自由獲得闘争を目標とする闘争
において、動員し協力せしめるために努力すべきである。この意味
からわれ等は労働政黨を認め必要に應じて協力すべきである。

だが大衆団体員には一つ統一せる政治的意見を強制すべきでな
いと云ふ原則より下に政黨とう間には闘争の必要に應じて連絡
機關を設けて問題を現実的に政治的に處理すべきである。この
場合、組合員個々より政治的意見を強制しないからと言つて組合全
体が機関により、大衆的討議によりて決定した政治的方针に對し
ては多数決への統制に従ふと云ふ組合デモクラシーを守るべきであ
る。斯の原則を確立なくしては大衆団体は分裂ばかりしなければ

ならぬだろう。以下略 云々と云れて居るが、これに對しても中央委
員會に於て大分問題とされたといはれて居る。

第一日は開會前物々しき情景を呈し、入場者は多く多く、身体
検査を行ひ上方總本部派は全國労働組合より應援來賓として整齊備
員約三十名で自衛し、入場者は一々調々、會議派の潜入を防いだ
大分極めて平穩に終つたのであつた。

第二日は前日同様出席が極めて悪く、午前十一時漸く開
催した。會議は別に破綻もなく進行した。即ち本年度運動方
針に對する賛同の如きは殆んどなく例年より如き大案件ではなかつた
程である。特に目立つたのはソヴェト社會ファシズムの議案で可成
り氣勢を上げた程であつた。會議派の一分子が休憩に乗じ
て口を散布したと云ふ入目を引いた。

以下本年度大会の状況を記述しよう。

〔下河部記〕